

# 有機栽培の拡大 ①乗用水田除草機



難しかった稲株の間の  
雑草も除草できる



回転部分が雑草をかき出し除草を行う。近年研究が進み、農機具メーカーから各種の除草機が開発・販売されるようになった。

- 適切な実施により除草効果が高い。
- 価格が高い。機体が重いことで田んぼに負担がかかる。

# 有機栽培の拡大 ② マガモ除草

餌場（一日1回餌やり）



電気柵用バッテリー



田植え後10日以内にマガモを田んぼに放し、遊び回って水をかき回すことで雑草を根付けなくします。また雑草や害虫を食べてもらいます。最近ではアイガモロボットが開発され、飼育の手間が不要なことから手軽に有機栽培に挑戦できると普及し始めています。

- ・適切な実施により防除効果が高い。
- ・また初期害虫に対する防除効果が高い。

# 有機栽培の拡大 ③チェーン除草

人力



乗用除草機との組み合わせ



田植え後4日目から、1日に何回も機械や人でチェーンを引っ張って土の表面を引っ掻き、草を生えにくくします。

- ・田植え後、早期に除草作業ができる。
- ・水田内の生物への影響が少ない。

# 有機栽培の拡大 ④紙マルチ除草



専用の田植機で紙を敷きながら田植えをします。黒い紙が光をさえぎり雑草の発生を抑えます。

- 防草効果が高く、安定している。
- 新規で取り組む場合も失敗が少ない。

# 有機農業を支える良質な堆肥生産

## 堆肥による土づくり

藤島エコ有機センターでは  
地域内外の畜糞を活用し、  
良質な堆肥生産を行っています。

- 敷地面積 23,314m<sup>2</sup>
- 建築面積 3,218m<sup>2</sup>
- 処理方式 機内循環加圧混練式
- 年間処理 牛豚糞 1,561.7 t (R4)
- 生産量 製品 1,147.4 t (R4)



# 人と環境にやさしい農業の推進

## 農薬や化学肥料を抑えた農業の拡大

単位：ha

水稲作付面積	令和3	令和4	前年比	割合
水稲作付面積	9,214.8	8,829.6	△385.2	100%
慣行栽培	5,739.3	5,315.3	△434.0	60.2%
特別栽培	3,412.3	3,443.2	+30.9	39.0%
有機栽培	63.2	71.1	+7.9	0.8%
有機+特裁の割合	37.7%	39.8%	—	—

# 都市との交流

## 練馬区光が丘と農家グループの交流

小学校で農家の出前授業



光が丘地区祭に出店

# 都市との交流

## 横浜市の保育園と生産者団体との交流

園児と農家が田植え稲刈り交流



鶴岡 I 型栽培米を給食へ



# 持続可能な農業 を目指して

## オーガニックビレッジ宣言

### <主な取り組み>

#### 生産段階の取り組み

- ・人づくり、技術の普及、生産拡大  
(農業経営者育成学校SEADS)

#### 流通、加工、消費等の取り組み

- ・SHONAI ROOTSとの連携
- ・学校給食への提供

## 鶴岡市



食文化創造都市  
鶴岡  
City of Gastronomy  
TSURUOKA



鶴岡市の基幹産業である農業は、米どころ庄内平野はもとより、高原や砂丘畑など、豊かな自然と先人たちのたゆまぬ努力で培われてきた技術によって営まれており、こうした風土を生かして育まれる多彩な農産物に支えられた食文化は、世界が認める日本初のユネスコ食文化創造都市として評価されています。

また、「人と環境にやさしいまちづくり」を掲げ、全国で2つの市町村しか有していない有機JASの登録認証機関となるなど、これまででも有機農業の推進に取り組んできたところです。

SDGs未来都市として、これまで守り育ててきた食文化を支え、これからも有機農業をはじめとする持続可能な農業を広げていくために、「オーガニックビレッジ」をここに宣言いたします。

令和5年3月31日

鶴岡市長 皆川 治